

遠泳・ジャパンオープン5キロの部で東島が3連覇



▲3連覇を喜ぶ東島一生

オープンウォータースイミング(遠泳)のジャパンオープンが7月21日、千葉県館山市北条中央海岸沖で行われ、男子5キロの部で東島一生(法4・沼津学園高)が1時間1分39秒で3連覇を果たした。

オープンウォータースイミングは自然の中で開催される競技。初めてのコースだったため、昨年より20分近く遅い記録にも「まずまずの結果だった」と振り返り、「夏シーズン初めに優勝出来、学生選手権に向けて好スタートが切れた」と力強く語った。このまま波に乗り、次は競泳で栄冠を目指す。(染谷智子・文2)

【ニュース専修8月号11面】

私たちが頑張ってます マネージャー特集



▲計測する森川さん(撮影・奥原)

甲子園ボウル目標に アメリカンフットボール部

7月というのに肌寒く雨が降り続く中、練習に励むアメリカンフットボール部。そんな彼らを温かく見守るマネージャー2人に話を聞いた。

部員たちを「ノリが良く、とても明るくて楽しい人たち」という上出菜央さん(法3・駒沢学園女子高)と森川華子さん(経営3・外語短大付属高)。上出さんは「みんなが一番良い形で集中出来るように心がけています」と話し、森川さんは「この仕事をしていて一番うれしいのは選手たちから“ありがとう”といわれた時」と言う。

「部員に望むことは？」と聞くと、2人とも「とにかくケガをしないで頑張ってもらいたい。私たちが甲子園(大学日本一を決定する『甲子園ボウル』の開催地)へ連れて行ってほしい」と笑顔を見せた。(中村邦宏・商1)

「部員に望むことは？」と聞くと、2人とも「とにかくケガをしないで頑張ってもらいたい。私たちが甲子園(大学日本一を決定する『甲子園ボウル』の開催地)へ連れて行ってほしい」と笑顔を見せた。(中村邦宏・商1)



▲部員と一緒に…渡辺くん(矢印)

パソコンで相手分析 バレーボール部

明るく、人当たりの良いバレーボール部マネージャー・渡辺啓太くん(ネット情報2・浅野高)。マネージャーとしてだけでなく総務・アナリストとしても活躍している。

アナリストとは、ビデオやパソコンを駆使し相手チームを調査・分析する専門家。多くの資料やデータを提供し、チームを支える柱となる。今春

の1部・2部入れ替え戦でも相当な分析をこなしたという。「時には徹夜となりますが、勝った時は報われます」と語る。

「みんなが休んでいる時も仕事が多く、つらい」と苦勞を話す、部について一番考えているのは彼であろう。「次こそ1部に上がろう!!」と力強く部員にエールを送っていた。(矢口蘭・文1)



▲ビブスを整理(撮影・久我)

一丸で戦う姿に感動 サッカー部

関東大学リーグ戦昇格を目指し、日々厳しい練習に励むサッカー部を支えている女子マネージャー6人の中から、入江真理子さん(経済1・真岡女子高)と渡辺敦子さん(法1・専大松戸高)の2人に話を聞いた。

練習の準備や後片付け、選手のアイシングなどマネージャーとしての仕事は少なくないが「昔から好きでしたが、マネージャーになって、もっとサッカーが分かった気がします」と話す渡辺さんの表情は

明るい。入江さんも「東京都大学リーグ1部2部対抗戦で、みんな一丸となって戦う姿に感動した」とチームの魅力を語る。躍進の陰には、彼女たちのサポートがある。関東大学リーグ昇格に期待したい。(川本麻実・文2)

明るく家族のように 野球部

野球部のマネージャー・石渡里恵さん(商3・平塚学園高)は明るく、気さくな人柄。高校1年の時、母校の甲子園出場がきっかけで、野球が大好きになり、スポーツの感動を覚えてくれた野球に触れてほしい！とマネージャーになった。



▲試合の資料作りに励む石渡さん(左)と田尻真美さん(商2)

実際は書類の提出など事務的な仕事が多く苦労もあるが、「選手の姿を見ると頑張れる」と笑い、「うちの部はとても仲が良く、あったかい家族のよう。マネージャー同士もぶつかり合いながらきずなを深

めてきました」と話す。

石渡さんの願いはただひとつ“2部優勝・1部復帰”だ。「Fight it out SENSHU!!の精神で戦い抜きたい」と意気込みは十分。熱い思いが叶う日が待ち遠しい。(日下石 聡子・文1)



▲選手にアイシングを施す渡部さん(左)と佐藤さん(撮影・田頭)

選手へ気配り忘れず バasketボール部

昨年の全日本学生選手権を制するなど、輝かしい実績を誇るBasketボール部(男子)。今年の関東大学新人戦でも3位入賞と勢いは止まらない。

この強豪バスケ部を支えるのは2人のマネージャー・渡部美保子さん(経営4・文化女子大付属杉並高)と佐藤百合さん(経営2・専大附属高)だ。2人の仕事はとても重要で、選手のケアは当然として、大会への提出書類の作成や雑務に至るまで、数々の仕事をこなさなくてはならない。

当然、目標は9月のリーグ戦優勝。「オフの後も気持ちを緩めずに暑い夏を乗り越え、ぜひもう一度優勝してほしい」と今後の抱負を話してくれた。(松本 旬平・経済1)



▲タイムを計る斎藤さん(撮影・染谷)

チームの雰囲気作り 陸上競技部

今年も箱根駅伝出場を目指し、秋の予選会(10月18日・箱根芦ノ湖周辺)に向け日々練習に励む陸上競技部。夏の太陽にも負けない、明るく元気なスマイルで選手をサポートする女子マネージャーに話を聞いた。

斎藤智恵さん(文2・専大松戸高)、栗原舞子さん(法2・県立相模原高)、小林優さん(商1・山手学院高)の3人が主にこなす仕事は、タイムの計測やドリンク作りのほかに、合宿の準備や事務的なことま

でと大変忙しい様子。部員からの信頼も厚く、チーム全体の雰囲気作りにも気を配る。

マネージャーになったきっかけを尋ねると「陸上が好きだから」と口をそろえる。彼女たちのサポートを受ける陸上部の活躍に期待したい。(伊藤明希・文1)

【ニュース専修8月号11面】

【ニュース専修ウェブ版トップに戻る】